

なんだ・かんだ

◆ 常識に囚われるな ◆

毎週金曜日に掲載される日経新聞の「ヒットのクスリ」に、セブンイレブンの「TOFU BAR」(豆腐バー)の記事が出ていました。

業界の常識で「〇×とはこういうもの」という決めつけが、市場を行き詰まらせる。ということで、これまでの柔らかくてつかめば直ぐに崩れてしまう。というお豆腐の概念を変えたスナック豆腐がセブンイレブンから発売されました。

セブンイレブンの店頭では2020年末から売れているようですが、サラダチキンバーのような形状で、片手で食べられるお豆腐。通常の豆腐に比べるとかなり硬めで、従来の食感とも違う食べ物。ということで、私もセブンイレブンで買って実際に食べてみました。

2cm角で長さ10cm程のスティック状。見た目はチーズみたいですが、よく見ると表面に格子状の網目模様があり、木綿豆腐の様な感じ。食感は水分を良く抜いて簡単には崩れない固い焼き豆腐と言った感じで、味は「和風だし」で結構美味しかったです。店員さんに聞いたところかなり売れているということでした。私が食べていたら、社員が「私もよく買います」と言っていたので、流行に疎いのは私だけなのかもしれません。

「TOFU BAR」は昨年11月に発売すると、20~30代の消費者に刺さり、売り切れて棚から消えることも良くあるそうです。

誕生のきっかけは社員の米国出張で、18年に米国のスーパーで、豆腐が精肉などと同じようにたんぱく源として売られていたのを見て、「豆腐はもっと自由に食べてもいい。チキンバーのような豆腐はできないか」ということで、豆腐は柔らかく作るのが常識だが、製造部門に「硬い豆腐を作してほしい」と懇願、なかなか応じてくれなかったが次第に社内の賛同者が現れ、「硬い豆腐」が出来上がったということです。

記事で紹介されていた「常識に囚われない」その他の事例は○同じお豆腐で、「豆腐は老若男女向けでターゲットがない市場」と考えられていたのを、アニメ「機動戦士ガンダム」の敵兵器「ザク」に模した豆腐が大ヒット。ターゲット戦略は豆腐でも「あり」。○同じセブンイレブンで、従来の融資による金利収入を基本とする銀行を、提携金融機関からのATM手数料を主な収益としたセブン銀行。○従来の動物園の展示方法を覆して、動物が行動する様子をそのまま展示する様にして人気を博した旭山動物園。等が紹介されていました。

どれもこれまでの常識的とされていた概念を改めて見直したところから生まれてきた商品やサービスです。

記事にはありませんでしたが、ワークマンプラスも同じですね。売るのは同じ作業服ですが、売るターゲットに女性を含めた一般客という新たな客層を加え、売り方もマネキンを使ったブティックの様な見せる展示に変えて売上が急伸させました

当社が扱っているワイヤロープですが、重厚長大な産業向けの製品だと思込んでいましたが、医療分野で高付加価値で販売されている製品もあります。

固定概念を壊したところにヒットが生まれる。

頭は柔らかく柔軟に発想しましょう。



本レターのご提供に付きまして、ご不要・ご迷惑という方に付きましては、その旨ご一報頂きたいと思っております。次回からの発送を中止させて頂きませぬ。

株式会社チキリ

静岡県駿東郡清水町卸団地73

Tel 055-971-9610 Fax 055-973-1534

E-mail gen@chikiri.com URL http://www.chikiri.com/

紅葉

秋らしい日が続きます。10月の半ばですが、少し寒いくらいで、当社の女性社員もカーディガンを着て執務に当たっています。

すでに北日本や東日本の山では紅葉の見頃を迎えている様ですが、ウエザーニューズが発表した今年の紅葉見頃予想に依ると、関東・甲信では、9月前半の気温が平年より低かったため、9月中旬に見頃を迎える標高の高い山では平年より5日前後早い見頃を迎え、一方、例年10月中旬に見頃を迎える山では9月後半~10月上旬の気温が高くなったため色付きが遅れ、平年より5日前後遅い見頃を迎える見込みだそうです。感染者数もぐっと減りました。休日に紅葉を見にドライブしても後ろ指は刺されませんよね。感染者減とは裏腹に、ここに来て景気の先行きは少し曇りが怪しくなってきました。半導体不足、原油を筆頭に資源や原料の高騰、円安などが景気の足を引っ張っています。昨午が悪かったたので対前年ではプラスですが、回復のスピードが緩やかになってきているようです。あれだけ良かった中国も今年7~9月期のGDPは前年同期比4.9%増で、減速が顕著になってきました。年度後半持ち直してくれることを期待しています。

代表取締役 服部 敏一郎

社員ブログ

● ピアノ続けてね ●

営業部 武田 亜子

秋らしい気温になりました。窓を開けて過ごしていると、ピアノの音が聞こえてくることがあります。懐かしい練習曲に、私自身がピアノを習っていた頃の事を思い出しました。

赤のバイエル、黄色のバイエル、その次はソナチネだったこと。発表会では、緊張で椅子の調整が上手くできず、毎回妙に遠かったこと。弾いた曲の中ではサン・サーンスの『ライオンの行進』が印象的だったこと。

家にあったのはアップライトピアノで、母が子どもの頃を買ってもらっていたものでした。団地の5階から引越した時には、ベランダからクレーンで吊って搬出しました。

全ての鍵盤が木製のものを長く維持していたのが珍しかったようで、調律師さんたちに「大切にしてください」と言われていたことも覚えています。

でも、鍵盤には虫食いの穴があき、調律するにも限界がきてしまい最後には解体処分してしまいました。

ピアノの音が聞こえるようになったのは、この秋から。あの子(勝手に小学生だと思っています)は、たどたどしくても丁寧に、1曲をちゃんと弾ききります。そしてレパートリーも豊富です。

お互いが窓を閉め切っていた夏の間に、たくさん練習していたのかもしれない。

私と同じように『ライオンの行進』が気に入っているようで、度々聞こえてきます。

どんな子が弾いているのかはわかりませんが、密かに応援しています。

(※)原文が良かったので、長文でしたがそのままコラムを1つ削って掲載しました。)

